ガッ
スッ
あぁぁぁ!!
おッ
イヴ…
おッ

ブブブブブブ
ガッ
あッ
くくくく……。
えっ？
ズズズ
キャッ
!?

一体何が……？
くっくっく……。
あなた
何をしたの……？
言う必要はない。
ハァ…
見てれば
わかるさ。

くくくく
ぱくっ
やったぜ！
ニヤッ
グッ

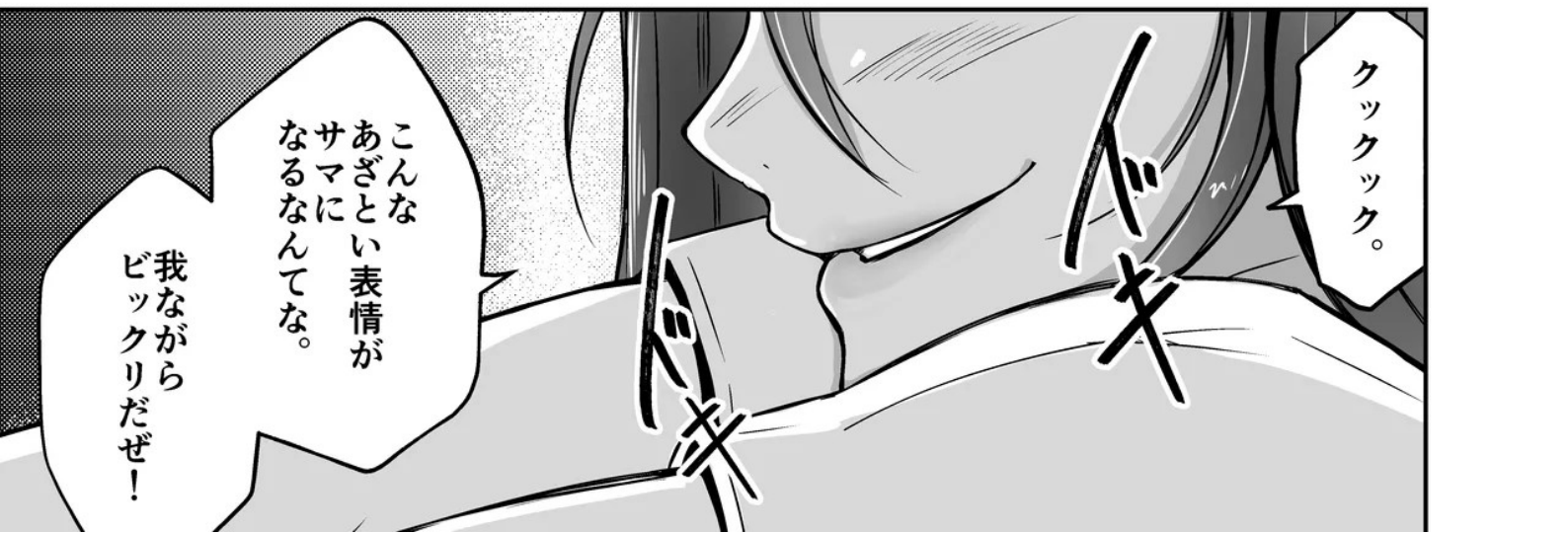
……どうして
私が動いているの？
まさか！
ツ
ゆゆゆ!!
成功だ！
これがオンナの身体……。
ハァ…
くっふふふ
ハァ…

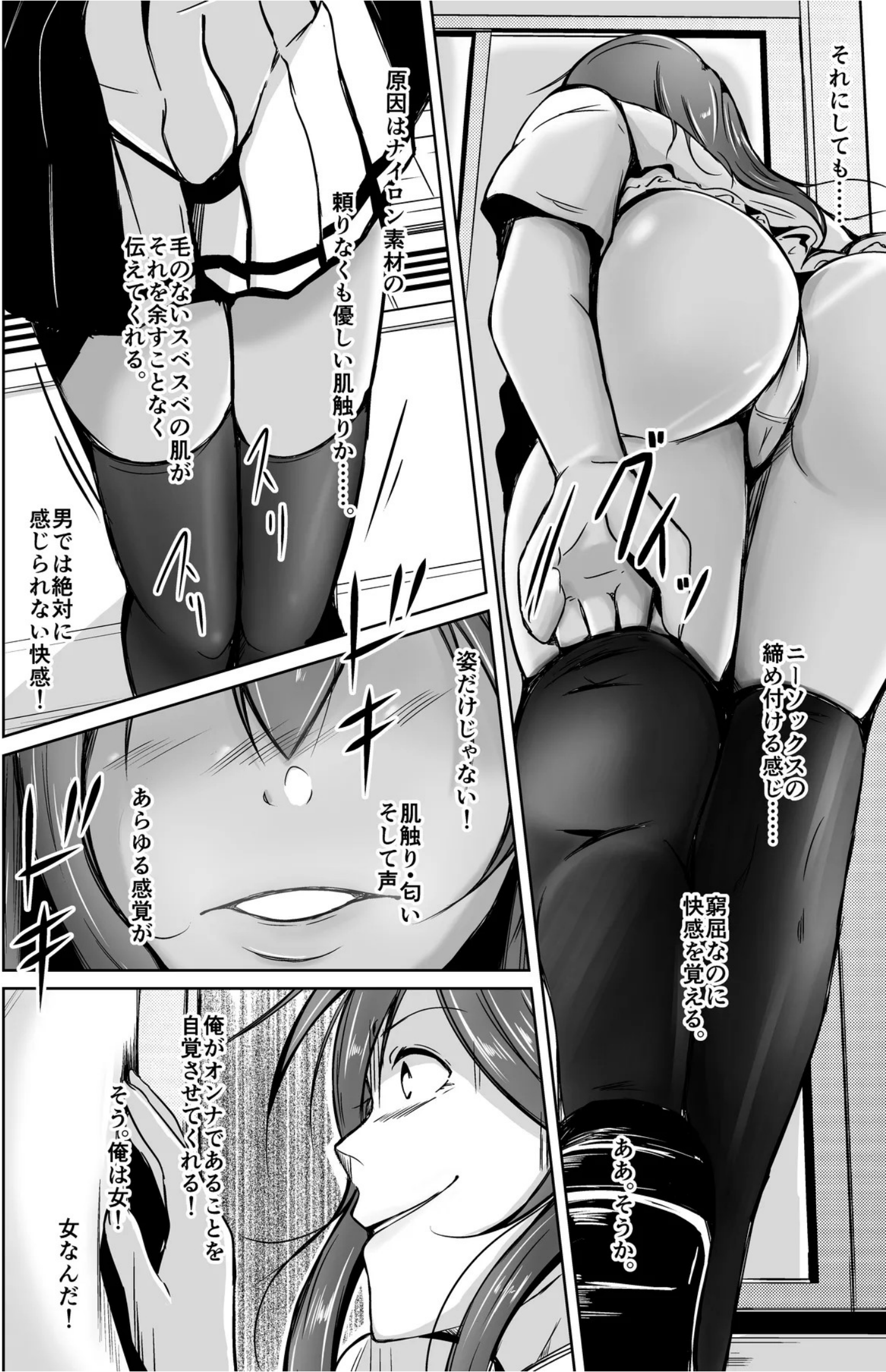
元のカラダとはえらい違いだぜ！
これが……このオンナが
ふわっ
俺だと思うだけでコーフンする!!

すぐにオナってみたい所だが
時間はたっぷりあるしな……。
……。
ククク
……おっと
女の子がこんな顔をしていたらいけないな。

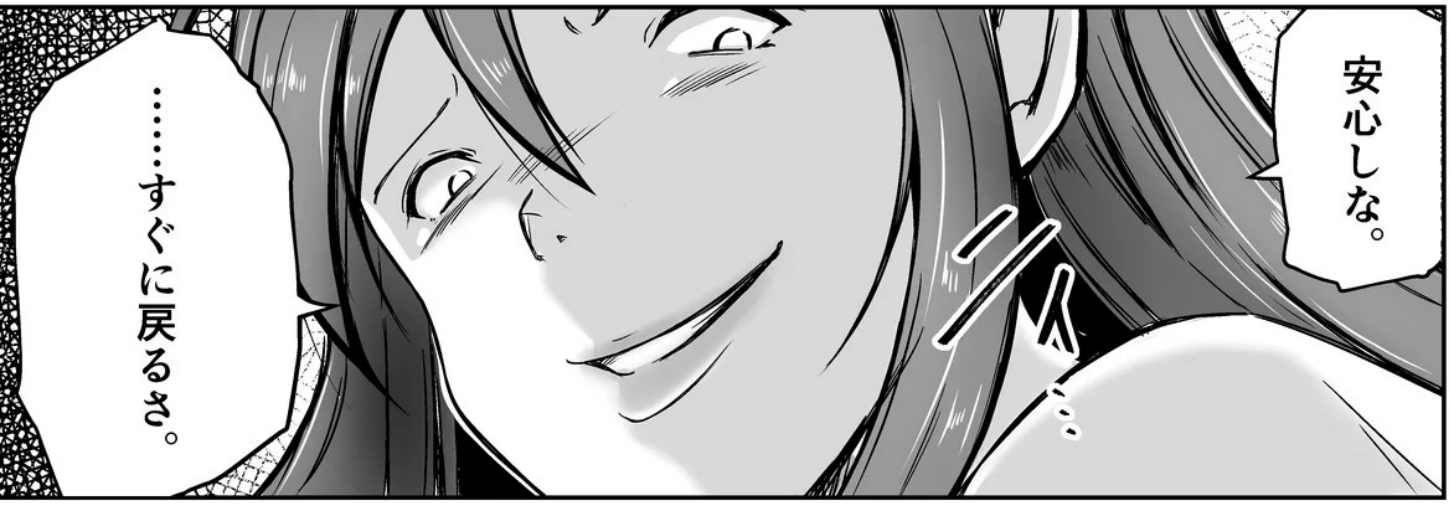
じっくりと
堪能させてもらうか！

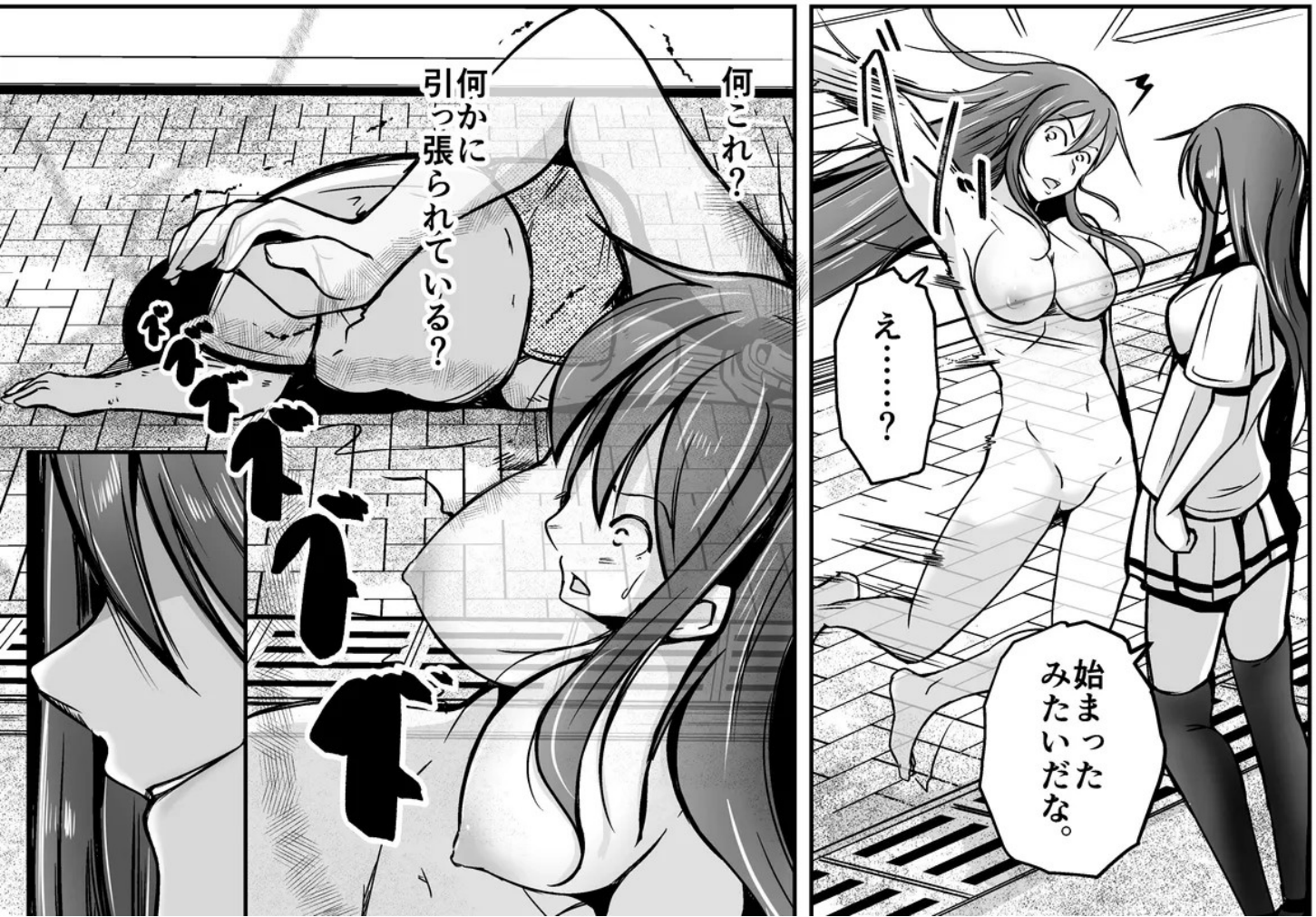
ニヤニヤ

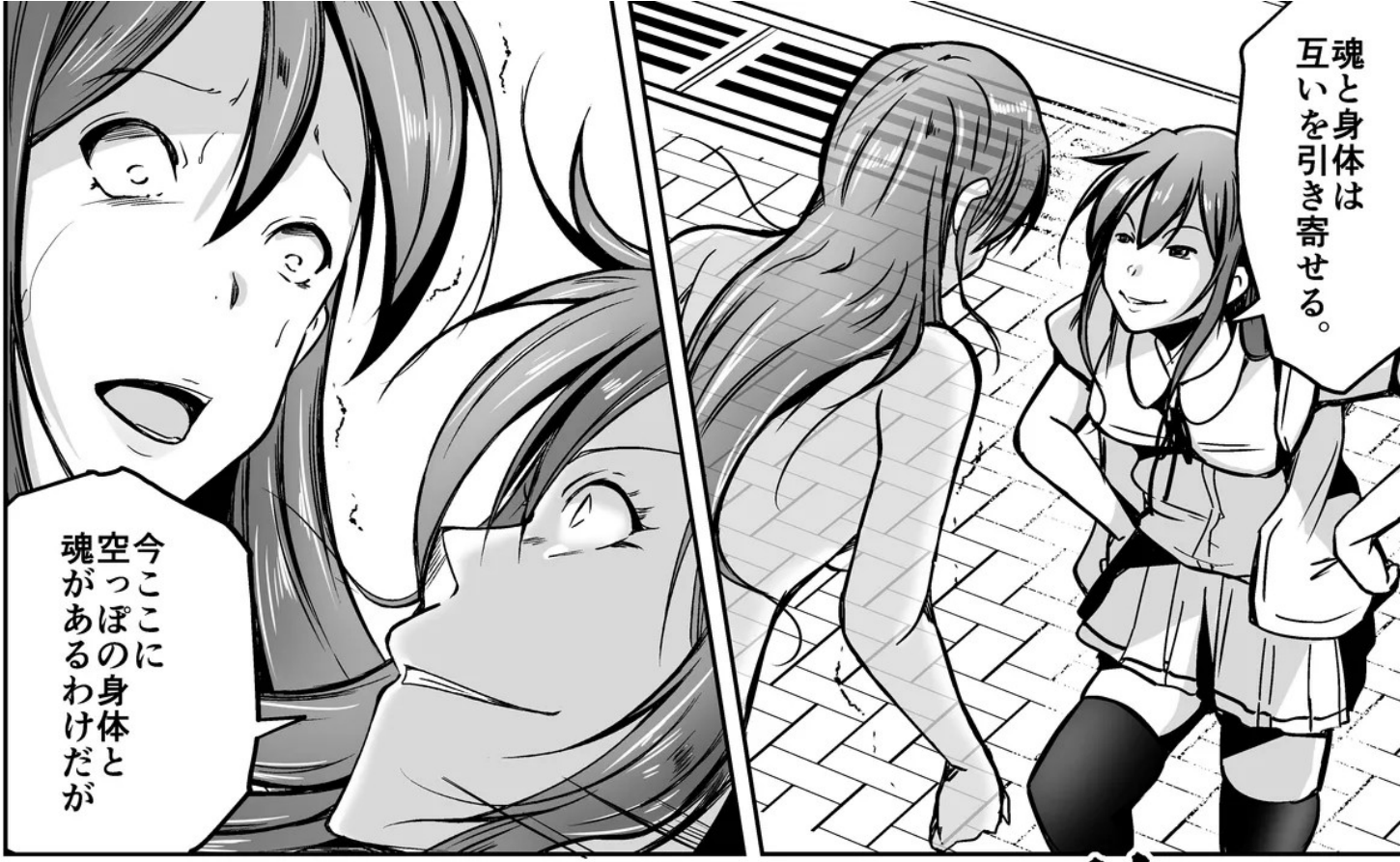

クックック。
ドキ
ドキ
こんなあざとい表情がサマになるなんてな。
我ながらビックリだぜ！

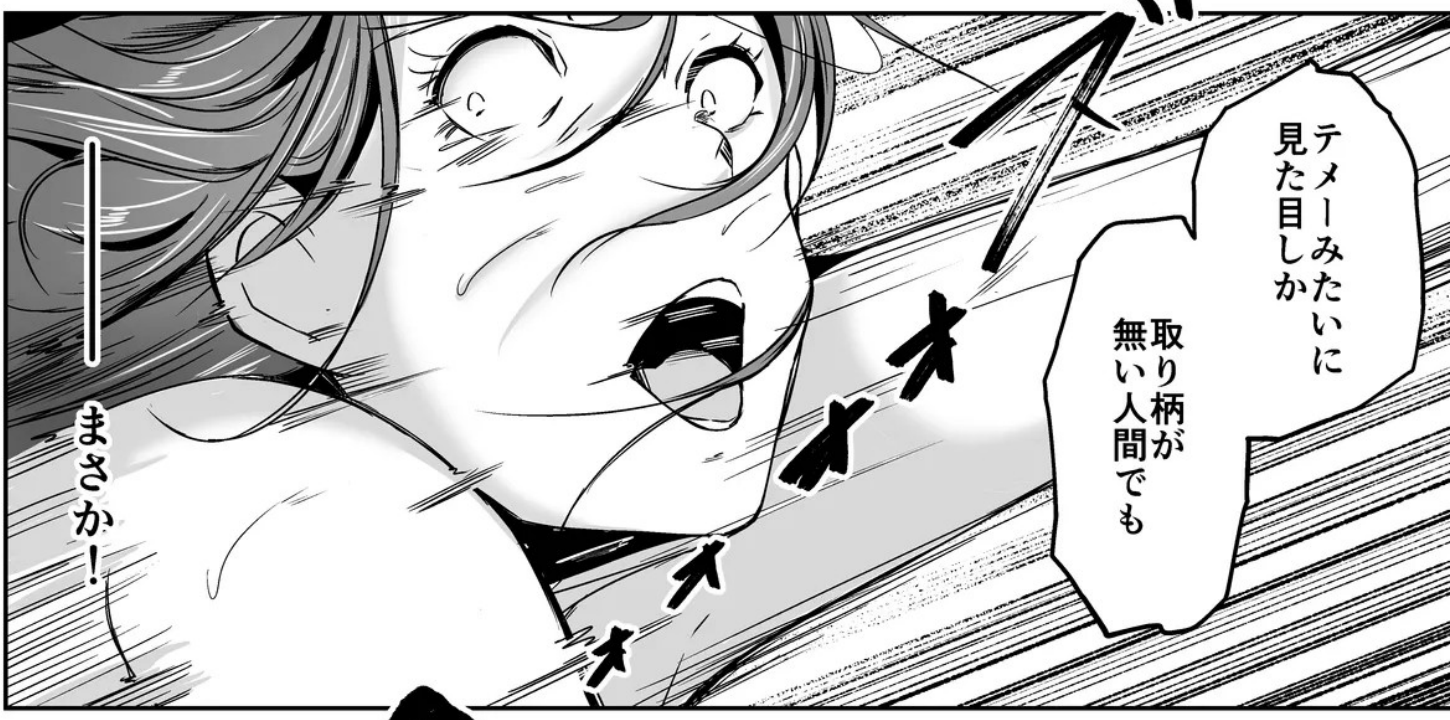

それにしても……
ニーソックスの締め付ける感じ……
窮屈なのに快感を覚える。
ああ。そうか。
そう。俺は女！
女なんだ！
俺がオンナであることを自覚させてくれる！
原因はナイロン素材の頼りなくも優しい肌触りか……。
毛のないスベスベの肌がそれを余すことなく伝えてくれる。
男では絶対に感じられない快感！
姿だけじゃない！
肌触り・匂いそして声
あらゆる感覚が

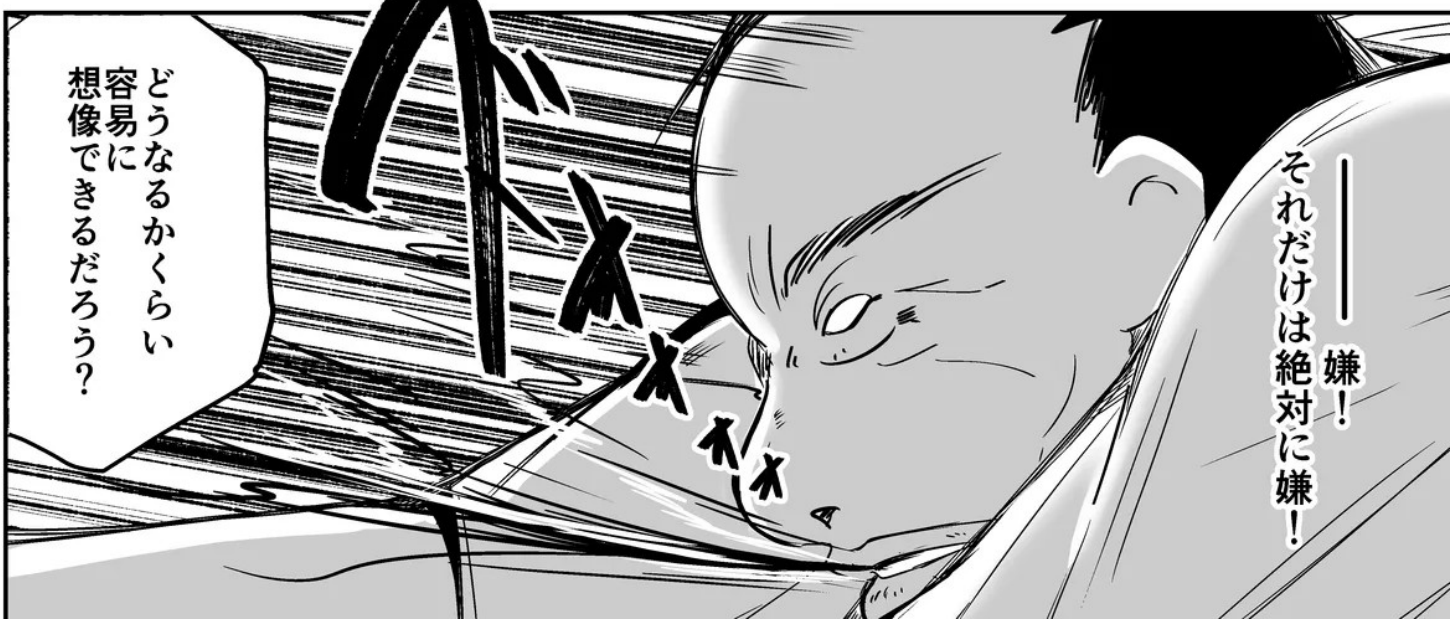
ちょっと！
アンタ！
今すぐ
元に戻しなさい！


安心しな。
……すぐに戻るさ。


何これ？
何かに引っ張られている？
ズズズ
え……？
始まったみたいだな。


魂と身体は
互いを引き寄せる。
今ここに
空っぽの身体と
魂があるわけだが


テメーみたいに
見た目しか
取り柄が
無い人間でも
――まさか！


――嫌！
それだけは絶対に嫌！
どうなるかくらい
容易に
想像できるだろう？

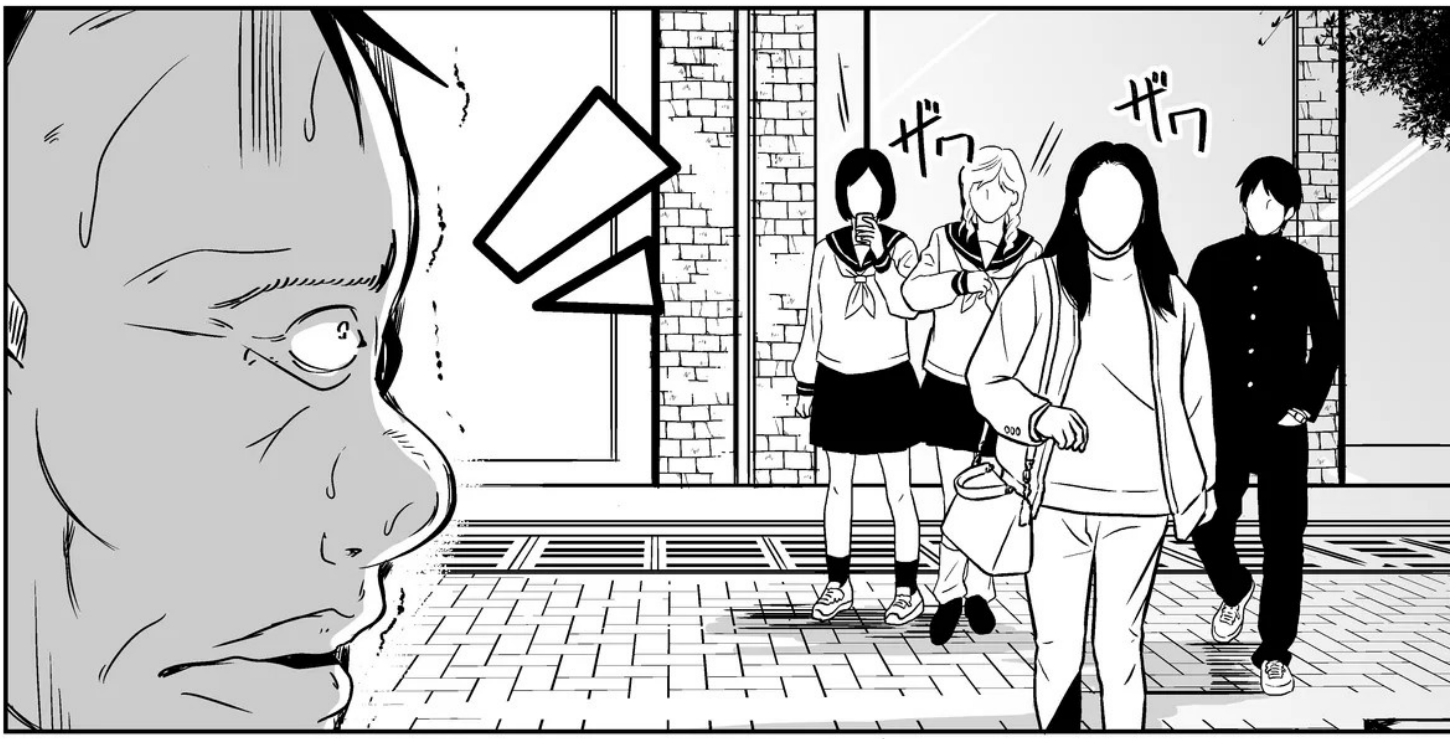
や……
やめて！
それだけは！
ぬあ!!
ピク
ッパ

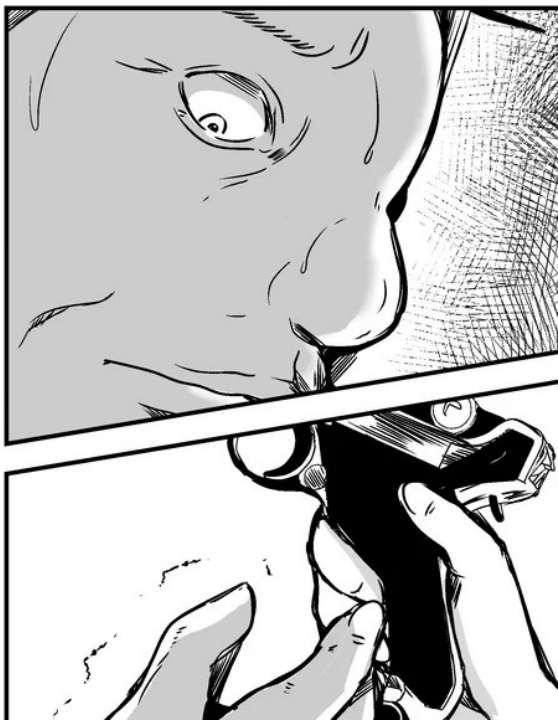
ああ……
きゃっ！
どうだ？
元、俺の身体は？
私？
これが……
そうだ。
それがお前の新しい身体だ。
気に入ってくれたかな？
……さて、

俺はお前の身体で
楽しませて貰おうかな？
じゃあな。

この銃を使えば元の身体に……。
やめた方が良いんじゃないか？

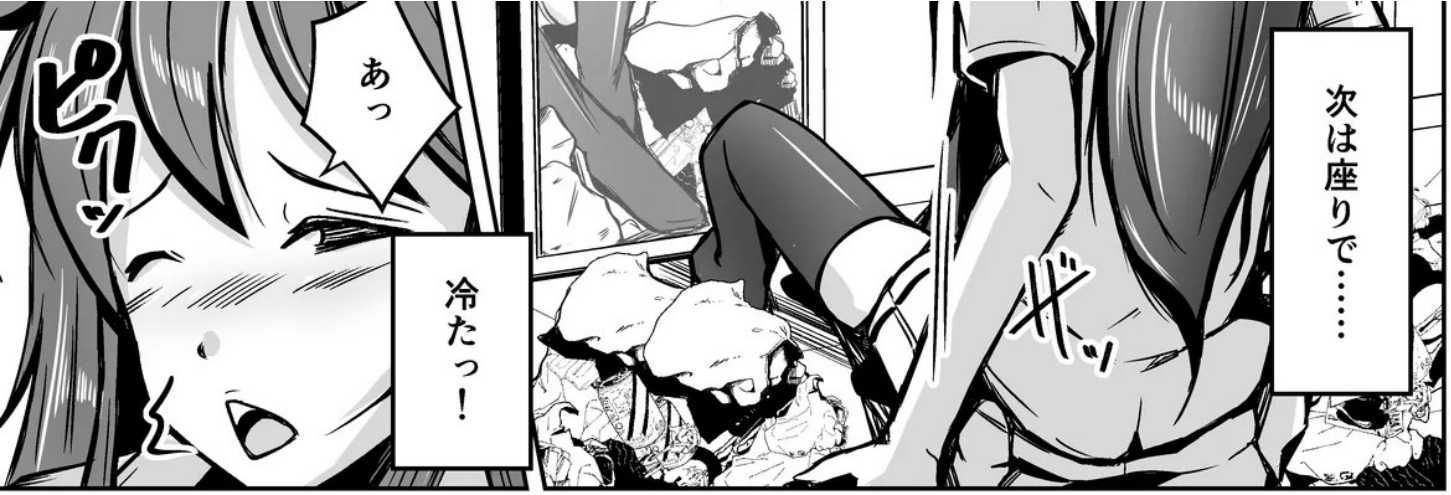
今の自分の立場を客観的に見て見ろよ。
俺はか弱い女の子……
そしてお前は
その女の子に手を出している
アブナイ男なんだよ。


ザワ
ザワ

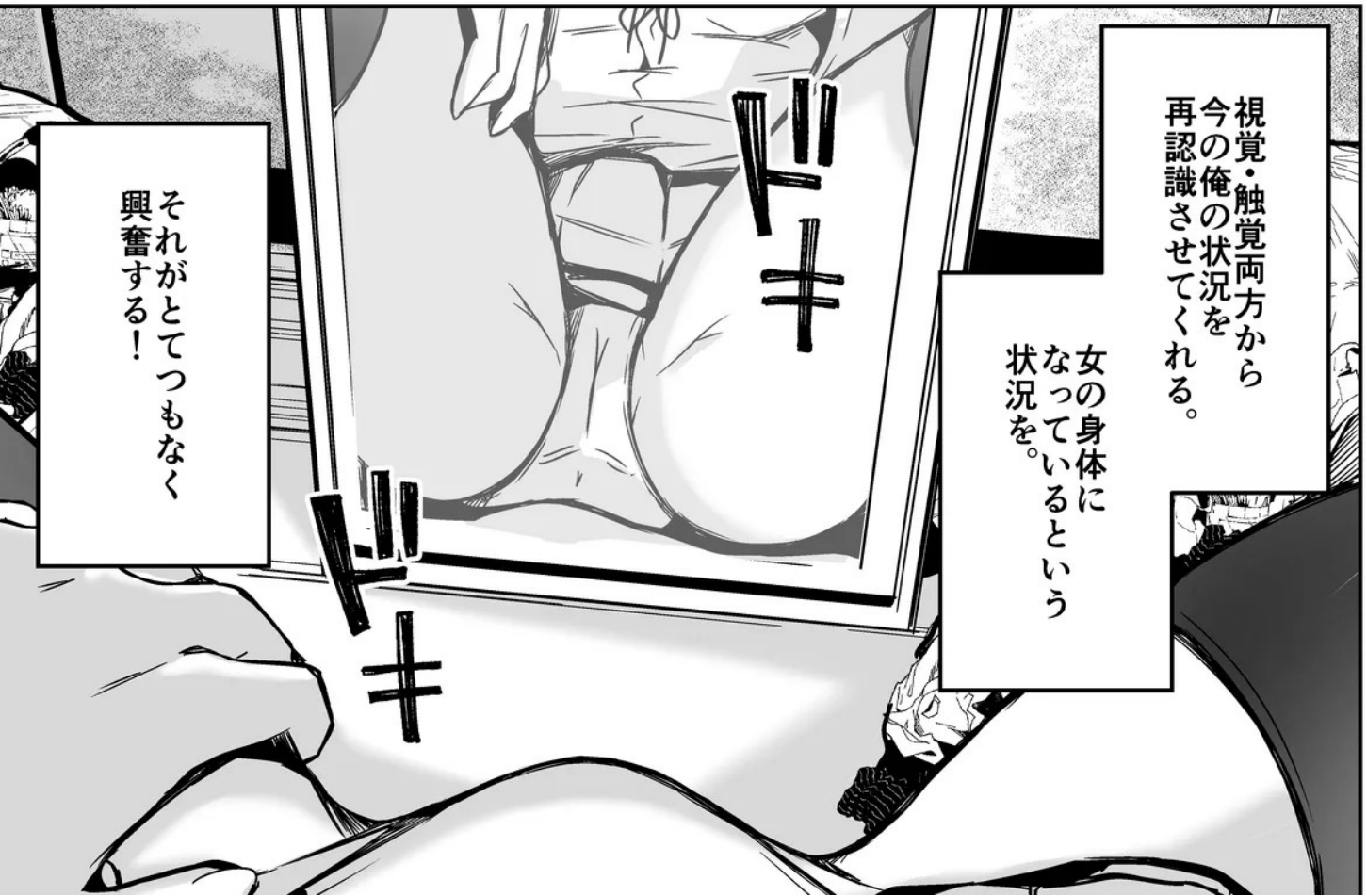


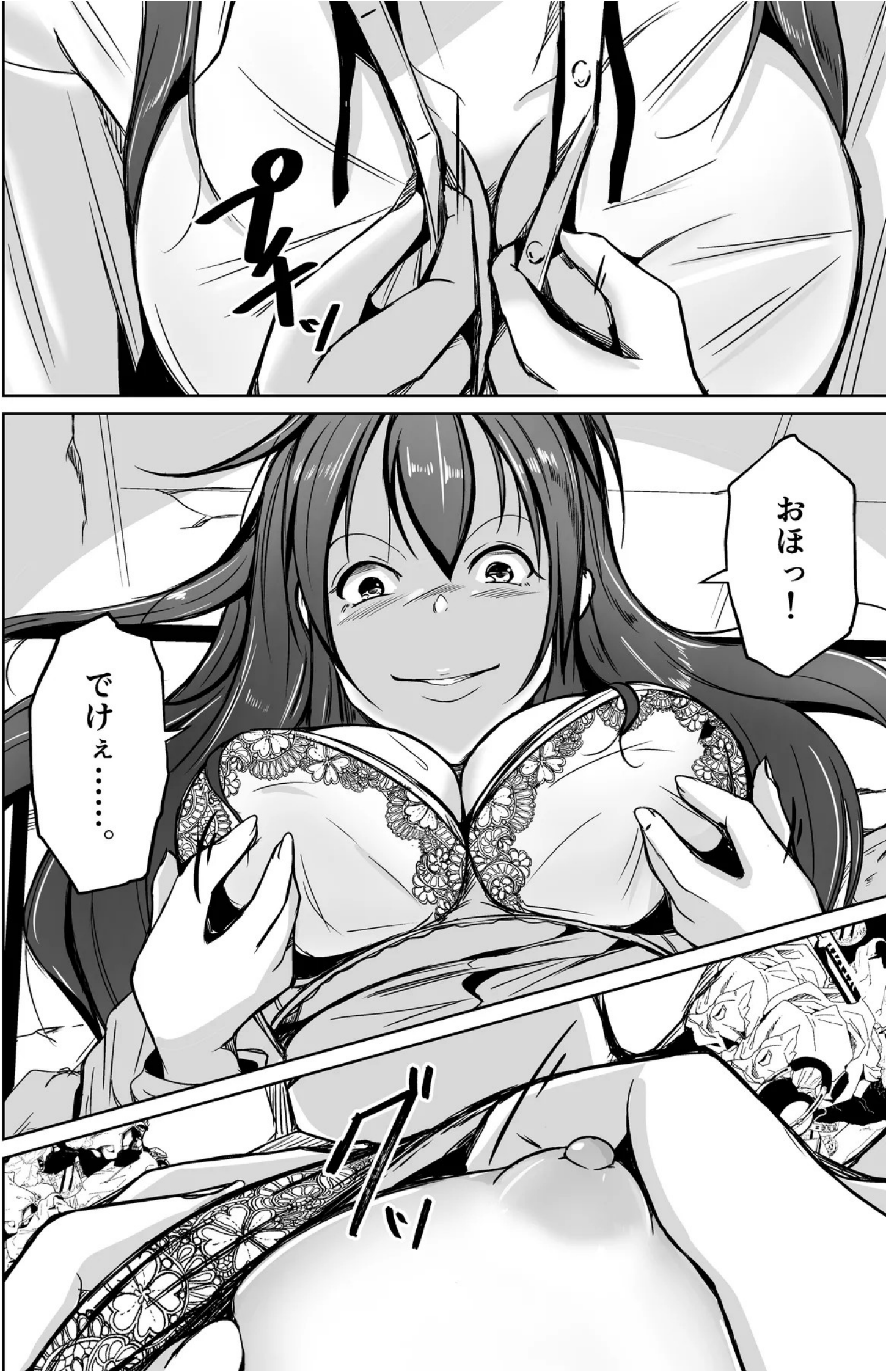
やはり
我が家は落ち着くねぇ。
ここなら
誰の邪魔も入らないし
思う存分コイツの身体を
堪能できるぜ！

まずは視覚を
楽しませてもらうか。
そのために
わざわざ姿見まで
事前に
買ったのだからな。
スラリとした
細くて長い脚を
そわ
ふわっ
動かすと同時に
スカートも揺れる
揺れる度に
スカートが太ももを
擦る感覚が
くすぐったい。
そわ


次は座りで……
ピクッ
あっ
冷たっ！

下着が直接床に触れるからか。
下着の薄さも相まって
地面の冷気が直接お尻に
これは女じゃないと知り得ない感覚。
ククク。


視覚・触覚両方から今の俺の状況を再認識させてくれる。
女の身体になっているという状況を。
それがとてつもなく興奮する！


おほっ！
でけぇ……。

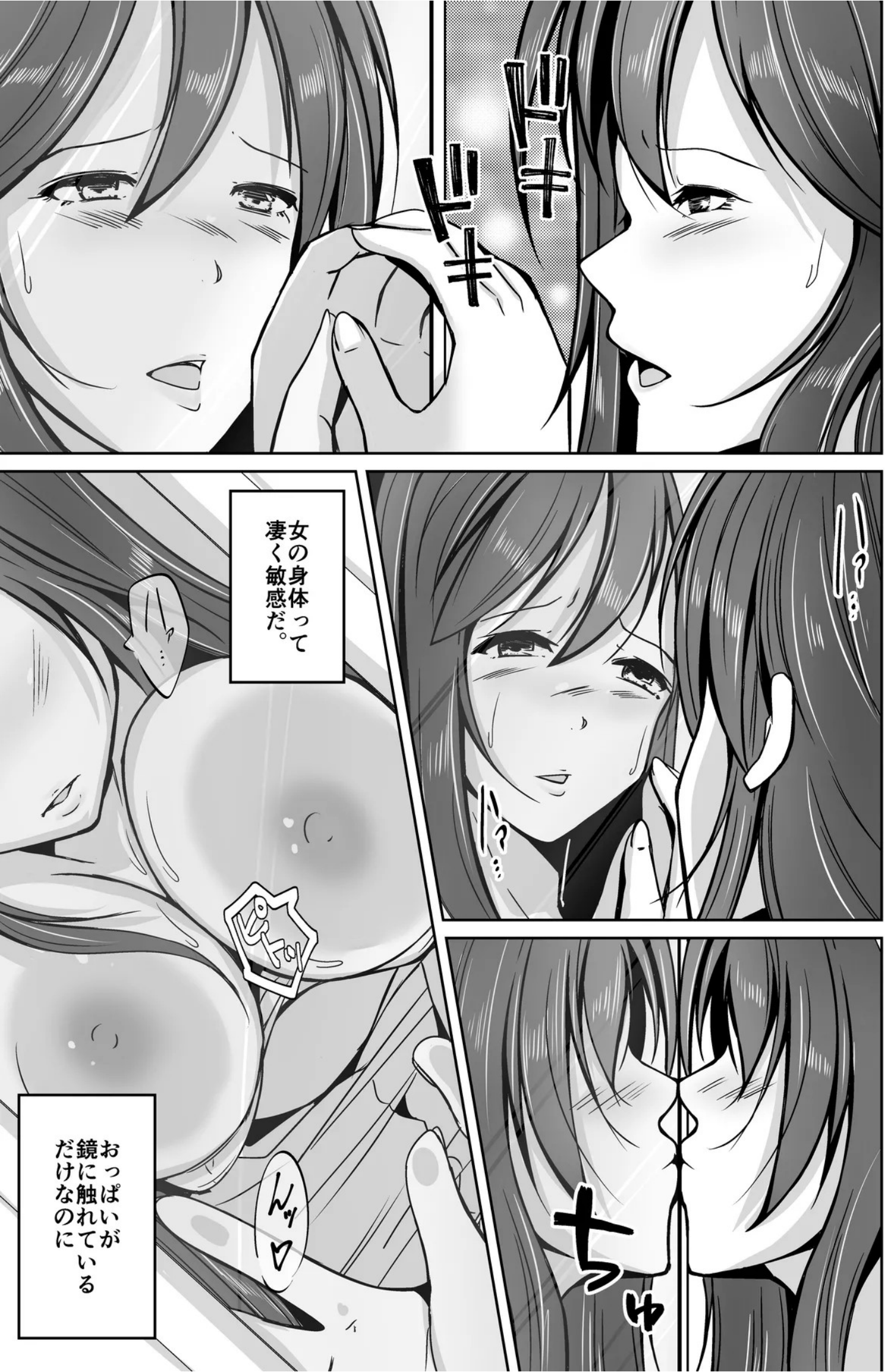
うひひひ。
うおっ！
凄っ！
ブラを外したと同時に
のしかかる重み！
や、やわらけぇー。
これ、本当に
俺のおっぱいなんだなぁ。
柔らかくて
スベスベで
ずっと
触ってられそうだ。
それっ。

すげぇ弾力！
や……やべぇ。
レロ
ちゅ

乳首の感度やべぇ……。
ハァ
ちゅ
わ
まるでおっぱいの先端に
ツヒ
レギュ
ちっさいチンコがついてるみたいだ。

気持ち良すぎて
声、
とまんねぇ……。
ぉッ♡
ビッ♡
ハァ

ハッ
オレ、
なんて表情を
してるんだ
ハァ
ハァ
これが本当に
俺なのか……？


ドキ
ドキ
女の身体って
凄く敏感だ。
!?
ハッ…
ピトッ
ん…ッ♡
ちゅ
おっぱいが
鏡に触れている
だけなのに

柔らかさ
冷たさが
明瞭に伝わってくる
ハァ…
ドキ
ハァ…
ドキ
ダメだ！
もう我慢できねぇ。

おっぱいで
この快感だったら
こっちは
どれほど
感じるのだろう？

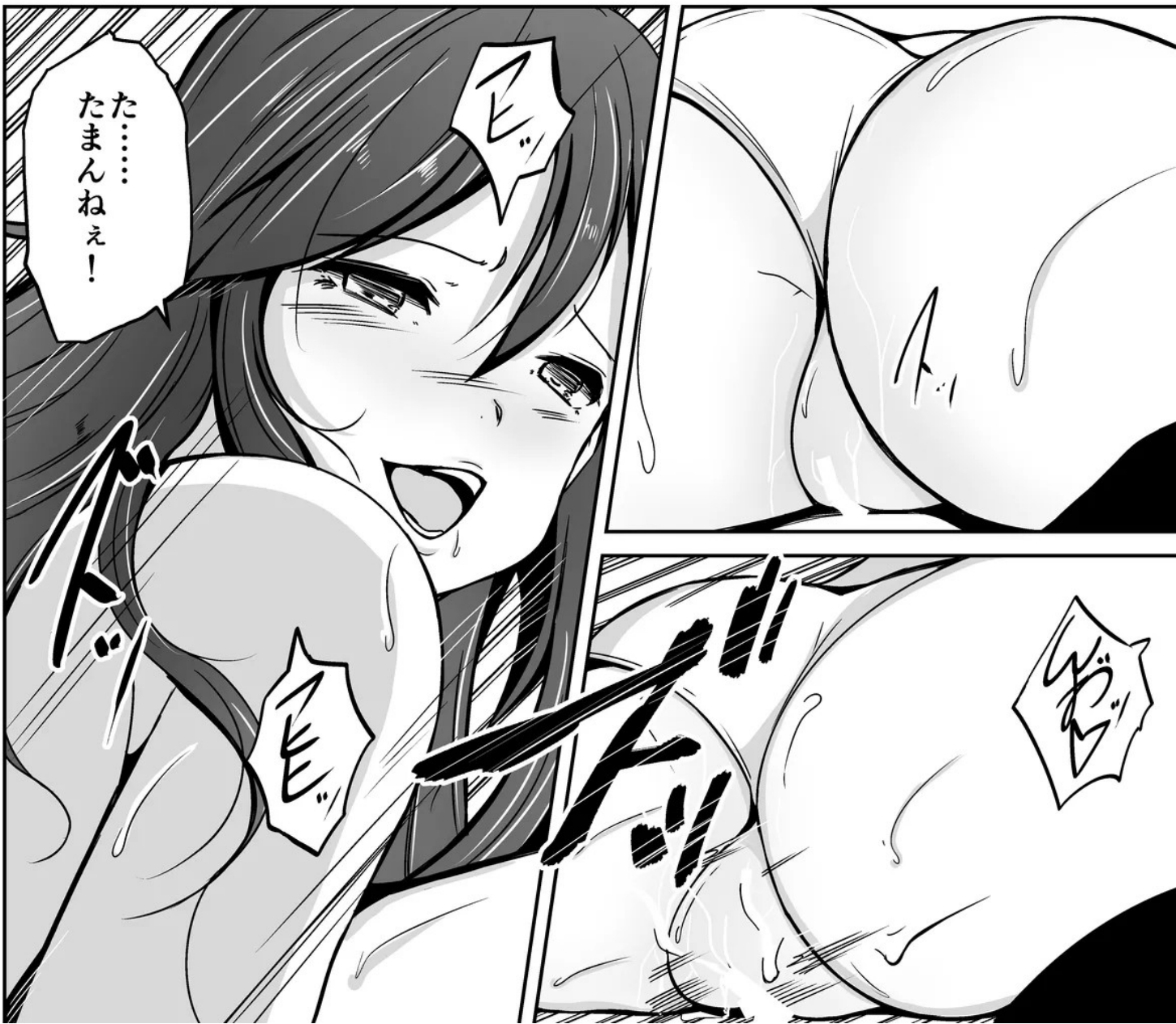
ククク。
ついに待ち望んだ
ピトッ
女のオナニー。
さて、
どれほどのものか。
ピトッ
ピトッ

当たり前だが
股間に何もない。
この突起。
クリトリスか？
こんなにも
興奮しているのに
勃つものがないって
変な感じだ。
――はっ!!

女のチンコなんて
例えられるが
比にならねぇ。
比べるのは
失礼ってもんだぁ。
パンツ越しでも
コレなんだから

生だったらどれだけなんだ？

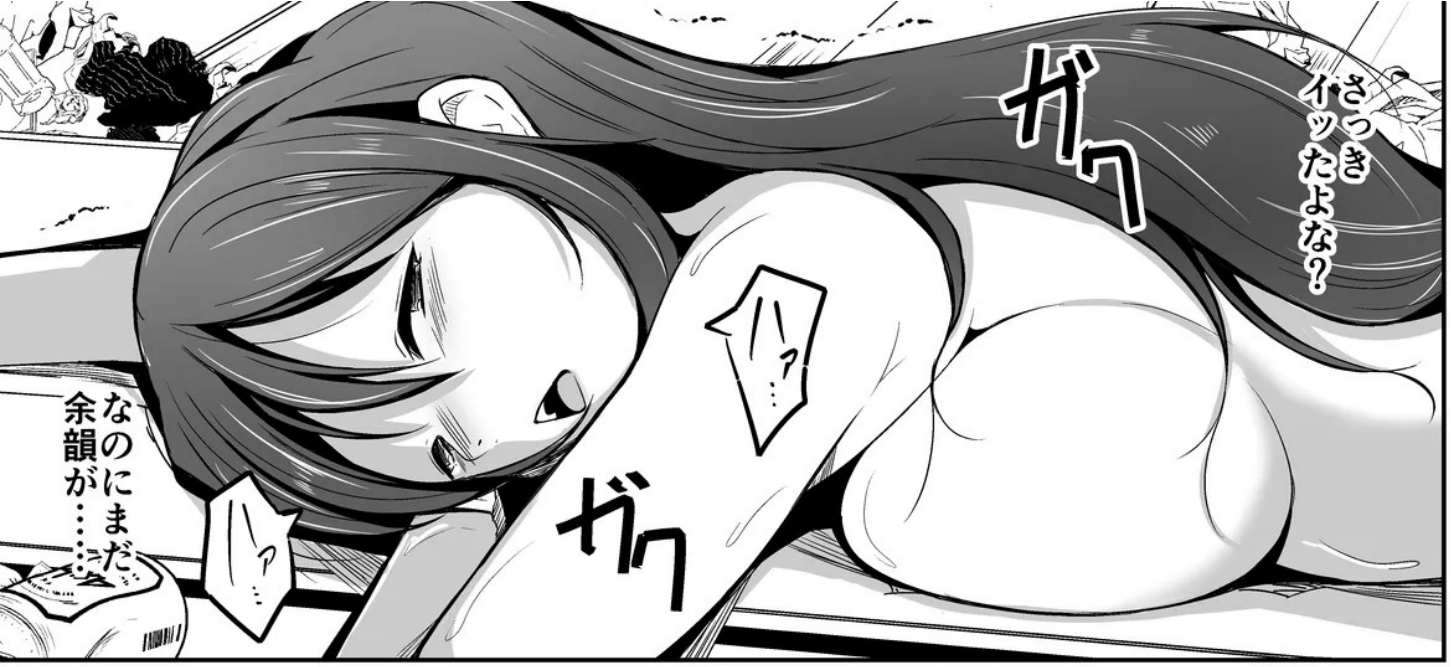
な、何だよこれ！
あっ♡
あっ♡

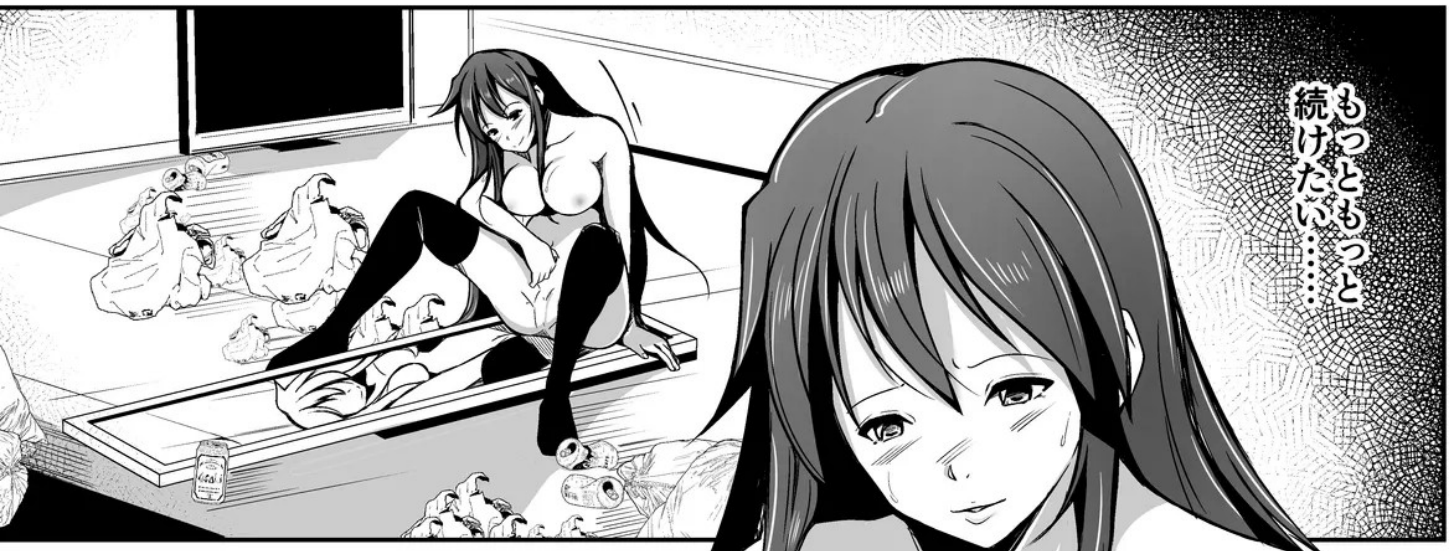

た……
たまんねぇ！
ビッ
ビッ
ビッ

ズリ
ズリ
重みで
他の部位よりも
遅れて動く。
おっぱいが
あるって
こんな感じなんだな。
ハァ
ハァ
ドキ
ドキ
ムニュ
さて、そろそろ
直接手で……！

あッはッ
おッ
――凄い！
全身に電気が走ったみたいだ！
快感でビクつくなんて！

チンコの感度を
一点に
凝縮したような
強烈な快感！
全身に快感が
駆け巡って
びくびく
さっきから
全身がビクビクして
止まらねぇ！
――来るっ！
今までで
一番大きな波が！


さっきイッたよな？
ガク
ハァ…
ガク
ハァ…
なのにまだ余韻が……


もっともっと続けたい……

今度は中を……

あッ♡
ズッ
はッ♡
ぐっんッ♡
んッ♡
こっちはクリとはまた違う種の快感!!

あッ♡
内側からじんわり広がっていくような
緩く長い快感が続いていく
きゅ♡

ここ！
気持ちいいっ！
グッ
女ってすげぇ。
快感が絶えず
波のようだ！
こんなのずっと
あッ
ハッ
ドッ
ドッ
続けてしまいそうだぜ！
あッ
あッ

素晴らしい。
これが女の自慰。
十分に堪能した。
次は……
相手が欲しいな。